

茨城大学工学部 令和 5 年度 工学部 FD 研修会報告書

令和 5 年 12 月 20 日

報告者 教育改善委員 原田隆郎・外岡秀行

1. 実施日時

令和 5 年 12 月 20 日（水）14 時 15 分～15 時 38 分

2. 場所

E1 棟 10 番教室(対面実施) ※対面で参加できない場合には, 領域長に許可を得た上で, Teams によるオンライン会議より参加

3. 参加者数（対面参加者数/オンライン参加者数）

79 名/59 名（対面/オンライン）

機械システム工学(18/15), 電気電子システム工学(13/12), 物質科学(16/11), 情報科学(14/9), 都市システム工学 (12/8), 工学基礎 (6/4)

4. 配布資料（Teams の会議チャンネル内のフォルダから配布）

4-1. 教育 FD_機械_清水.pptx

4-2. 多変数の微積分学大規模化報告.pptx

5. 議事次第（司会：外岡秀行・原田隆郎，教育改善委員会 FD 担当）

14:15～14:20 開会の辞 教育改善委員長 宮嶋照行

14:20～14:55 令和 4 年度 前学期 推奨授業 機械力学 I (A 班)
機械システム工学科 准教授 清水年美

14:55～15:30 多変数の微積分学 大規模化報告
電気電子システム工学科 教授 島影 尚

15:30～15:35 令和 4 年度後学期 推奨授業 表彰式

15:35～15:38 閉会の辞 工学部長 乾 正知

6. 議事

- (1) 教育改善委員長 宮嶋照行先生より開会の辞があり，当初予定されていたオンデマンド型授業「情報スキル」の紹介（情報工学科 助教 柴田 傑先生）は，柴田先生の体調不良のため，急遽，「多変数の微積分学」の大規模化報告（電気電子システム工学科 教授 島影 尚先生）に変更となったことが説明された．

- (2) 令和 4 年度前学期推奨授業「機械力学 I (A 班)」を担当された機械システム工学科 准教授 清水年美先生から授業概要と実施方法，成績評価方法（変更前後の比較），成績評価結果，今後の課題や感想などについて 30 分程度の報告があり，その後 5 分程度の質疑応答を行った．

質疑応答の内容は以下のとおりであった。

- ・（質問）今回は対面授業で実施されたが、仮にオンライン授業であったとすれば、学生との接触も減るので授業のやり方や効果なども変わってくるのではないか。また、オンラインの方が良かった点があれば教えて欲しい。→（回答）現在はオンラインではないので過去の話になるが、学生と接触できず直接話せないので教育効果は減るという印象であった。一方で、オンラインの場合は、学生のレポートに対して修正箇所を指摘する場合などは効率が良いと感じる。
- ・（質問）問題のレベルを区別して学生が学習しやすいようにしていることで、前年度の落単者が合格するような助けになっているという事例は把握されているか。→（回答）そのような状況になっているかどうかはわからないが、後期に行われる機械力学演習Ⅰを見ると、勉強する習慣ができていない人とそうでない人とで傾向が分かれ、勉強する習慣ができていない学生は、次年度も単位取得できていない傾向がある。
- ・（質問）学生アンケートの結果によって成績評価方法を変更したのはなぜか。→（回答）単にアンケートによる評判が悪かったからであるが、成績分布を見て評価方法を変更しても良いかと思ったため。

(3) 電気電子システム工学科 教授 島影 尚先生より、本年度試行的に実施されている「多変数の微積分学」の授業の大規模化について、経緯、実施方法、中間アンケート結果、次年度からの実施内容などについて 30 分程度の報告があり、その後 5 分程度の質疑応答を行った。質疑応答の内容は以下のとおりであった。

- ・（質問）出席は manaba で取っているとのことであるが、授業に参加していなくても出席のみ回答する学生はいなかったか。→（回答）いたかもしれないが、そこまで把握できていない。また、出席のみ登録する学生への対応も難しいので黙認している。
- ・（コメント）本年度の同授業の担当者である湊先生より、①本授業は岡先生から引き継いだものであること、②レポートや小テストはできるが試験はできない学生が少なからずいるので対面の試験は必要であること、③試験の実施に関しては問題作成と実施&採点を分離することで効率的にできる、とのコメントがあった。
- ・（質問）基本的には当該授業の大規模化については順調とのことであるが、特に問題はないと考えてよいのか。→（回答）今のところは順調と思われる。この授業は学科ごとにクラス編成されているのでやりやすい。学生からの質問や要望などもほとんどない。
- ・（質問）授業計画を 15 回から 13 回に変更する際に、単に演習回がなくなるだけであると考えるのは問題がある。これまでの演習時間が学生の学修効果に影響していると考えられるので、注意していただきたい。→（回答）了解した。注意して授業計画を検討したい。
- ・（お願い）来年度の同授業を担当する関根先生より、オンラインでの授業となるため、質問対応する方法について何かよいアイデアがあれば教えていただきたい、というお願いがあった。

(4) 令和 4 年度後学期の推奨授業として選定された「基礎有機化学Ⅱ」の物質科学工学科 講師

細谷孝明先生,「建築設計製図Ⅱ」の都市システム工学科 教授 遠藤克彦先生および同学科 助教 稲用隆一先生に対して,工学部長より表彰状が授与された。なお,令和4年度後学期の推奨授業では2つの授業が選定された経緯について,教育改善委員長の宮嶋先生より説明があった。

- (5) 工学部長 乾 正知先生より閉会の辞があり,引き続き教員の研究時間確保のために授業の効率化を行っていくこと,そのための具体的方法などがあれば提案して欲しい,という趣旨のコメントがあった。

以上